

三重県立上野高等学校
同窓会報

VOL.22

白 HAKUA 亜

事務局：〒518-0873
三重県伊賀市上野丸之内107
上野高等学校内
TEL & FAX：0595-24-2231
ホームページ：
http://www.ict.ne.jp/~hakua/
E-mail：hakua@ict.ne.jp



2019年のトークイベント「世界目線で考える。メタ観光編」で(右)

テレビ業界に入ったのは、大学時代に祖父の親友のご子息で伊賀出身の放送作家、岡豊さんに面会の機会を得たことが契機だった。「ダウンタウンのごっつええ感じ」や「恋のから騒ぎ」などのチーフ作家を務めていた。一九九八年、会ったその日から一緒にやってみるか？と声をかけられ、「笑う犬の生活」や「情熱大陸」などを共に立ち上げた。ビートたけしと多数の番組で関わり、「ビートたけし」と「北野武」の在り方、作品作りでのこだわり抜くポイントを実践しながら演出を学んだという。浜崎あゆみのデビュー当時から歌姫になっていく課程をプロデューサーとして伴走した経験も持つ。

テレビ業界に入った時は仲間にも恵まれ、毎日が文化祭のような素晴らしい体験をしていた。が、一方で、学生の頃から触れていたインターネットへの可能性はずっと心の隅に引っかかっていた。その前年にFacebookが、翌年にはTwitterが創業、インターネットの本格的な大衆化が進みつつあった2005年。可能性を感じていたインターネットの世界に2、3年の留学をするつもりでYahoo! Japanに入社する。その後テレビの世界に戻ってきたら、インターネットもテレビも知る人間として、自分自身の価値も高まるのではないかと考えた。一般の個人と個人がやりとりをするヤフオクをはじめとしたCGM (Consumer

鉄砲作りの「國友衆」の末裔
余録・・・全国の「國友」姓の人たちを集める会を企画、一族を背負う自負もあるという。16世紀半ばから起こった近江の鉄砲作りの職能集団「國友衆」を祖とし、東洋のエジソンと呼ばれ、日本の天文学者の先駆けでもあ

した。8年連続でテレビCM好感度No.1を続ける三太郎の演出、5年連続大企業イノベーションNo.1として経産省から表彰されたオーブンイノベーションの取り組みなど、KDDIの企業価値向上に大きく貢献した。現在も同社のアドバイザーとして関わりを絶やさない。
一見、華々しい経歴の持ち主だが、岡豊さんからの「おもしろい人はいくらでもいる。だからこそ初対面からどんな人に対しても、人としてちゃんと振る舞いなさい。」というアドバイスを座右の銘にしている。取材を重ねる中でそのことは如実に感じ取ることができた。

國友さんは自らを端的に表現するならば、「眠っている価値に光をあてて輝きを解き放つ」総合演出家であるという。
IoTという言葉に象徴される、ハードウェア機器とソフトウェアの融合は現代では当たり前になったが、学生時代、複雑系システムズエンジニアリングに強い興味を持ち、その中でもロボットの感性や感情を開発する研究に携わった。物事を俯瞰的に捉え、要素分解された様々な機能を統合的に組み上

げていくプロセスの知識が、現在に仕事に生きているとのこと。
2008年に設立した会社「アソビジョン株式会社」では、労働人口の減少の時代に付加価値生産性を高めていくことが企業にも国にも大きなテーマであるとの認識から、感動を広く長く

多様な異なる分野に見えるキャリアで國友さんが次々と実績を上げること

今年から慶應義塾大学に戻り、学生時代の指導教官の前野隆司研究室(ヒューマンシステムデザインラボ)の感動研究グループを率いる。ヒューマンシステムデザインラボをさらに牽引したいと新たな意欲を燃やす。

中学時代は生徒会長、野球やサッカーではキャプテンを務め、サッカーの全国大会に出場した。リーダーシップを執る芽がこの頃からあった。また、人権作文でも上野産業会館で受賞スピーチをした。
上野高校時代のエピソードでは、高1で海外の大学ばかりを進路志望し、担任と両親から猛反対を受けた。三者面談では頑なな彼の態度に母親が号泣、父親が激怒し、数日間、家出したとか。この頃、シンセサイザーもこよなく愛した。坂本龍や小室哲哉さんなどの音楽プロデューサーに憧れ、多くの人に夢や感動を与えようと米パークリー音楽大学進学を真剣に志したが叶わなかったという。

眠っている価値に光を

國友さんを単に肩書だけで語ることは難しい。大学在学中から、テレビの人気番組の演出家、プロデューサーとして活躍、アーティストの演出も含め、約10年で数々の実績を上げ頭角を現す。が、意表を突くようにYahoo! Japanに移籍。多様なメディアプラットフォーム開発を担い、企画・事業戦略部門のトップとして、新規事業開発を多数成功に導いた。さらにKDDIでは、全社CX責任者(Customer Experience)として、すべての顧客接点における体験

価値創造を実現し、高い評価を獲得する。現在はアソビジョン株式会社代表取締役の傍ら、立命館大学客員教授、並びに慶應義塾大学ヒューマンシステムデザインラボ研究長という研究者の肩書も持ち、システム工学、感性工学の研究の実践者としてイノベーション・ヒューマンシステムのデザインにおけるその手法が目まぐるしく「伊賀が生んだ現代日本のレオナルド・ダ・ヴィンチ」と表現すればイメージしやすいかも知れない。



プロフィール
たかし
「アソビジョン」代表取締役、慶應義塾大学客員講師、Yahoo! Japan、KDDIを経て現職

ができる、その中核価値とは？
「人の感性、感情・感動にずっと関心をもってきた。」と國友さんは言う。システム工学・感性工学の研究者として、二〇一六年に日本創造学会で最優秀論文賞を受賞したことから立命館大学の総合科学技術研究機構で大学院生や研究者を指導する機会を得た。この4年間は伊賀市の実家から通ったので親に初めて「ちゃんとした仕事」をしている姿を見せることができた、と笑う。

頑なな進路志望で母を泣かせた高校時代

母を泣かせた高校時代
上野高校時代のエピソードでは、高1で海外の大学ばかりを進路志望し、担任と両親から猛反対を受けた。三者面談では頑なな彼の態度に母親が号泣、父親が激怒し、数日間、家出したとか。この頃、シンセサイザーもこよなく愛した。坂本龍や小室哲哉さんなどの音楽プロデューサーに憧れ、多くの人に夢や感動を与えようと米パークリー音楽大学進学を真剣に志したが叶わなかったという。

TV演出家からネット界・研究者へ

総合演出家 國友尚さん(高47回)

ビートたけし、浜崎あゆみらの番組制作

「恋のから騒ぎ」などのチーフ作家を務めていた。一九九八年、会ったその日から一緒にやってみるか？と声をかけられ、「笑う犬の生活」や「情熱大陸」などを共に立ち上げた。ビートたけしと多数の番組で関わり、「ビートたけし」と「北野武」の在り方、作品作りでのこだわり抜くポイントを実践しながら演出を学んだという。浜崎あゆみのデビュー当時から歌姫になっていく課程をプロデューサーとして伴走した経験も持つ。

責任者兼新規事業統括部長として、ヘッドハンティングされる。CXとはCustomer Experienceの略で、メディア、インターネットサービス、Eコマース、コールセンター、投資先など、au by KDDIとして接するすべての顧客接点を統括する立場で経営参画

鉄砲作りの「國友衆」の末裔
余録・・・全国の「國友」姓の人たちを集める会を企画、一族を背負う自負もあるという。16世紀半ばから起こった近江の鉄砲作りの職能集団「國友衆」を祖とし、東洋のエジソンと呼ばれ、日本の天文学者の先駆けでもあ

した。8年連続でテレビCM好感度No.1を続ける三太郎の演出、5年連続大企業イノベーションNo.1として経産省から表彰されたオーブンイノベーションの取り組みなど、KDDIの企業価値向上に大きく貢献した。現在も同社のアドバイザーとして関わりを絶やさない。
一見、華々しい経歴の持ち主だが、岡豊さんからの「おもしろい人はいくらでもいる。だからこそ初対面からどんな人に対しても、人としてちゃんと振る舞いなさい。」というアドバイスを座右の銘にしている。取材を重ねる中でそのことは如実に感じ取ることができた。

若い年代にも魅力ある同窓会に



同窓会会長 左橋 佳三

上野高等学校同窓会員の皆様には、益々ご健勝にて、それぞれの地域、それぞれのお立場でもってご活躍されておりますこと大慶に存じ上げます。

本校も、前身であります三重県立第三中学校が明治三十二年に創立されまして以来、今年で創立百二十四年めとなり、この間、同窓会員も物故会員様を含め四万六千名を超える大きな組織となっておりますこと、また本年も全日制二百六十四名、定時制二十名の諸君が新しく同窓会員として入会されましたこと、大変喜ばしく存じます。

また、同窓会の運営につきましましては、皆様方からご納付頂いております年会費、或いは新卒業生諸君から頂きました入会金等によりまして、事業活

新たな時代を創る上野高校を目指して



学校長 杉阪 英則

令和五年四月一日付で県立上野高等学校へ着任いたしました杉阪英則と申します。同窓会のみなさまには、平素より上野高等学校に温かいご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

現在の学校の状況は、ようやくコロナ前に戻りつつあります。四月は、全日制普通科二〇〇名、理数科四〇名、定時制普通科十一名の新生を受入れ、明るく元気に新年度を迎えました。少子化の影響もあり、残念ながら全日制普通科は今年度からクラス減となりましたが、生徒は切磋琢磨し、昔と変わらず努力しています。五月は、県総体(インターハイ県予選)において、多くのクラブがめざましく活

ご挨拶

動費を賄い、例年通り、横光利一先輩を偲んでの雪解の集いをはじめ、会報の発行、また、体育系、文科系ともに全国大会へ出場されます上高生諸君への激励金の贈呈、或は、東京、京阪神、名古屋の各支部様への助成金の拝呈等、各事業とも計画通り遂行できておりますこと有難く存じております。しかし残念ながら現役世代の若い方々が、お仕事のご都合が御ありだとは存じますが、母校、或は同窓会に対する意識が一部の方を除き稀薄であるように感じているのは私だけではないと考えます。そして、このままの状態が続きますと、同窓会運営の将来にも支障が生じると懸念するところでございまして、若い年代の方々にも魅力を感じていただける同窓会となるように努めていかなければならないと、強く責任を感じているところでございます。

一方、新型コロナウイルス感染症の問題、ロシアのウクライナへの侵攻等不躍してくれました。六月は、体育祭を行いました。生徒たちの真剣な眼差し、はち切れんばかりの笑顔を見、感動を得ることができました。学習面におきましても、昨年度は医学部医学科への一般入試による合格をはじめ、多くの生徒が、夢に向かって自己実現を果たすことができました。在校生にとっても、先輩たちの頑張り、はととも良い刺激になっています。次は自分だと、目指す将来の姿に向かって走り出したところです。

ご存じのように、本校は文部科学省からの指定を受けてSSH(スーパーサイエンスハイスクール)事業を進めています。地域の課題を解決することにも、「国際舞台で活躍することのできる人材の創出」を目指しております。この事業は今年度でI期の最終年である五年目となり、最終まとめに取り組みながら次の新たなステージ(II期)の準備を進めているところでございます。



耐震改修工事を終えた明治校舎

安な情勢に加え、毎日のように報じられる殺人事件、痛ましい交通事故等の報道の多い中こうした時にこそ、地域的にも、年齢階層的にも大きな拡がりがある同窓会員相互に連携を密にし、情報の交換、親睦を図り、連帯を深めていただくことこそ同窓会の存在価値が一層高揚するものと思えます。あとになりましたが、会員の皆様方のご健康、ご多幸をご祈念申し上げ、今後も引き続きご指導、ご協力賜りますようお願い申し上げます。ご挨拶

さらに、昨年度から「新時代に対応した高等学校改革推進事業」(普通科改革支援事業)の指定を受け研究を進めています。これにより、令和七年度からの新学科の設置についても検討をしているところでございます。芭蕉さんの「不易流行」の考えに則って、いつまでも変化しない本校教育の本質『自強不息』を忘れないなかにも、新しく変化を重ねていくことが大切であると考えています。上野高等学校の伝統を守り、新たな時代を創ってまいります。今後とも卒業生のみなさまからのご指導、ご鞭撻をお願いいたします。

卒業生をたずねて

株式会社ナベル社長 永井規夫さん (高26回)

地元ではかえって馴染みが薄いかもしれないが、ナベルは伊賀から世界に飛躍したグローバル企業だ。カメラ用の蛇腹製造からスタートし、CTやMRIといった医療機器、さらには工作機械やロボットに使用するカバリの製造を幅広く手がけるに至った。国内の社員数は約2000人。海外ではアメリカと中国に100%の子会社を持ち、韓国にジョイントベンチャー企業、台湾には営業所と将来のための協力会社を有している。地元の話題として、伊賀市のふるさと納税返礼品にナベルの折り畳み式ソーラーパネルと蓄電池が採用されていることを記しておこう。

伊賀市ゆめが丘の本社に社長の永井規夫さんを訪ねた。永井さんは1957年生まれ。高校では軟式野球部キャプテンを務めて文武両道を追求し、関西大学法学部に進んで80年に卒業。ナベルは父親の諒さんが72年、旧上野市丸之内に永井蛇腹として創業し、富士



ゆめが丘にある株式会社ナベルの本社・工場

フィルムやスウェーデンのハッセルブラッド社に蛇腹を採用されるまでに育てあげていた。

「カメラは美しいものを撮るものだから、カメラの部品も美しくなければならぬ、というのが創業者の信念でした。美は世界共通の価値観。しかし美しいものは簡単にはできません。最適な素材を開発し、それを形にするための製法を開発することによって初めて美が生まれるということです」

しかし85年のプラザ合意以降、円高が進んで輸出が伸び悩み、カメラ用蛇腹の売り上げも低迷。業界の厳しさを実感していた諒さんが、大学を卒業して司法試験に挑戦していた永井さんに、ナベル製品を紹介するダイレクトメールを作成して可能性のある顧客に500通送付することを命じた。ただちに実行したが、反響はなく、送付先にフォロワーの電話をしても好感触は得られなかった。ある企業からは「黒い蛇腹はいらない。うちは医療機器のメーカーだ」との答えが帰ってきた。

このとき、永井さんは蛇腹メーカーの後継者になることを決意したという。「貴社の必要としておられるのはどんな蛇腹ですか」と尋ねると、会社まで来るようにと勧められた。それが鳥津製作

蛇腹の美を追求し 伊賀から世界へ

所との出会いだった。諒さんと二人で訪れ、同社の医療機器工場MRIの新型テーブルに装着してあるカバリの試作品を見た。何が問題かと質問すると、「重い、美しくない、価格が高い」との答えが返ってきた。試作品を借りて帰り、研究開発に寝食を忘れて没頭した結果、6か月後にアルミニウムのパイプを使用した軽くて美しくて安価な新製品が完成した。

「鳥津製作所のMRIという当時最先端だった製品のカバリが欲しいというニーズに幸運にも出会い、そこから蛇腹とは必要なきに伸び、いらぬときには縮む機能的なカバリだという定義を確立しました。それが半導体製造装置や高速機械のカバリなどに広がって現在に至っています」

88年、永井さんは永井蛇腹の専務取締役となり、90年に海外営業を開始。92年にナベルと社名を変更し、98年には現在地に本社と工場が完成した。ナベル社長に就任したのは2005年のことだった。

「創業者のやっていたことが先細りになると、それを否定して何かに置き換えようと考えますが、私はそこに何か学べることはないかと考えました。カメラの蛇腹をつくらせてきたビジネス展開にナベルの根本的なものがないのかと考え、美しい蛇腹という答えを得ました。カメラの蛇腹で学んだ正しい素材と正しい製法に立ち、そこにエンドユーザーに嬉しいと思ってもらえる製品をつくりたいというわれわれの願いが加わって、初めて美しい蛇腹ができるわけです。これが私たちに与えた真理です。永井さんの言葉はよみなくつづいてとて全容はご紹介できない。つづきは昨年10月に刊行された著書『美しいジャバラを求めて』(日刊工業新聞社、本体1500円)でお読みいただきたい。

様々なこと思い出す

懐かしの先生を訪ねて

菅生和光先生

三重県文化功労賞、伊賀市政功労賞(平成25年)、三重県文化大賞(令和3年)、地域文化功労賞(文化庁令和5年)。音楽の先生、吹奏楽部の顧問のみならず三重県の音楽界の指揮者で指導者としての長年の功績に対して近年、市、県、国からの受賞が続いている菅生和光先生。

◆懐かしい景色と創立百周年◆

上野高校が教師として最後の勤務校となった。久しぶりに母校に赴任したときはとにかく懐かしい景色が目についた。音楽室の窓から見える城の高石垣は、昔その位置にあった講堂から見えていた石垣と同じだった。高校時代の記憶に一瞬にして戻り、学校のグラウンドピアノで友だちと一生懸命練習したこと、昭和33年、講堂に初めて小さなテレビが入り、NHK放送でイタリアオペラの公演番組を学校で見せてもらえるよう何度も校長にお願いし、音楽の先生が一緒であることを条件に実現した。が、最後まで見ていたのは菅生先生一人だった。とのこと。



ベートーヴェン・ハウスで

上野高校では創立百周年が迫っていて記念事業の準備が進んでいた。式典の演出を担当し、また、上野高校の前身の旧制3校の校歌と上野高校の校歌、学生歌、応援歌を入れたCDの制作を提案し実現させた。

◆吹奏楽部の顧問として◆

一方、吹奏楽部の顧問として、これまで勤務した学校で定期演奏会を開催し、すべて県代表や東海大会へ出場の実績を重ねて来た先生にとっても、当時の吹奏楽部の様子はとても記念事業で演奏会をやる状態ではなかったと振り返る。せっかく同じ音楽クラブであるギターマンドリンクラブがあるので百周年を期に、吹奏楽部とギターマンドリンクラブが一緒にステージを作ることを目指し

東京時代の貴重な体験が活きる

先生のもう一つの顔は「小天狗清蔵」ゆかりの伊賀市山出、勝因寺のご住職。仏教については三重大学芸学部音楽科を卒業後、大正大学大学院文学研究科で学ばれた。この東京時代の4年間に、埼玉県立越谷高校定時制で書道と音楽の教師として

た。現在も続く吹奏楽部とギターマンドリンクラブの定期演奏会は、この100コンサート、第一回定期演奏会を開催したことに始まる。今年で27回を迎えるが、一緒に音楽を作り上げる。上野高校の新しいスタイル。として演奏会を模索してほしいと語る。

三重県では、木本、名張、名張桔梗丘高校に勤務した。その間、昭和48年のインターハイ三重大会で式典音楽担当委員、指揮者、日米の吹奏楽指導者協会国際会議(ハワイ)でのゲストコンダクター、昭和50年の全国国体式典音楽主任指揮者、55年の全国植樹祭式典音楽主任指揮者を務めた。54年に日本吹奏楽指導者協会(JB)の優秀指導者賞受賞を始める。中部、全日本の各吹奏楽連盟からの表彰を受けている。

教師をとり、土日は草加高校吹奏楽部の指導をした。この間に音楽をはじめ様々な分野の先生や知人との出会いがあり刺激を受けた。その貴重な体験がその後の活動に活かされたと振り返る。

◆消えゆく学校の校歌を再現◆

この数年、先生が力を入れている活動に、「なつかしい校歌をたずねて」がある。伊賀市内で学校の合併により廃校となった学校の校歌を音で残す活動である。学校はなくなっても、卒業生にとっては大切な思い出の校歌をよみがえらせた。故前川圓さんの「赤まんまの会」の事業である。

地元小中学校の演奏会に出演し、各学校の校歌をアレンジして演奏をしてきた楽譜をもとに、「なつかしい校歌をたずねて」I・II巻(旧上野編、大山田・阿山編、青山編)が完成し、数回の演奏会で発表されている。

先生の音楽への思いは止むことはなくなお一層の活躍へとつながっている。

(取材・峠 美晴 高校32回)

いが☆グリオ～いちごいちえ～



十五周年イベント盛況に

令和五年六月二日、伊賀市文化会館。日本列島に台風二号が接近。伊賀にも大雨と暴風が。明日は「いちごいちえ」の開催日だ。お天道さまのすることである、肅々と準備を進めるしかない。「関西本線が止まっています。イベントは開催するのでしょうか？」遠来のスタッフからの問い合わせに動揺……。十五年の想いを詰め込んだイベ

神格化1120年 上野天満宮で建替

上野天満宮(お天神さん)にお祭りする菅原道真公が「天満大自在天神」の尊号を与えられ、神格化されてから1120年になります。この機会に老朽化が著しい参集所・社務所の建替事業が開始され、各界の御奉賛金をお願いされています。

北伊勢上野信用金庫 上野営業部
口座番号 普通 5235895
菅原神社 代表役員 直井清

受験シーズンには志望校合格祈願の絵馬を奉納する生徒たちに、学問の神様からの叱咤激励が欲しいところでありたい。

※2016年にユネスコ世界無形文化遺産に登録されたダンジリ神幸祭は今年がコロナ禍以来正式行事開催となります。

ントを止めるわけにはいかない。翌朝……。昨日までとは打って変わって四方を囲める山々には靑空が広がっていた。お天道さまからの鮮やかなプレゼントに体が震えた。「いが☆グリオ」は伊賀市観光大使のご当地キャラクターである。いがぐり頭にまあるく突き出したお腹が特徴の忍者の男の子だ。生誕十五周年を迎えるにあたり、地域が元気になるイベントを企画することにした。思えば数え切れないほどの人にお世話になったのだ。タイトル「いちごいちえ」は、十五周年の「十五」と「いちご」の言葉あそびだが、人との出会いを大切に活動してきたグリオくんのイベントに相応しい。

コロナ禍以来、初の大規模イベントの運営であった。「勘が鈍っていないか?」地域のニーズに変化はないか?」そんな不安は、早朝から開場を



大人の社会見学

いがぶらり体験博覧会「いがぶらり023」が9月23日から12月10日の間、伊賀市内各所で開催されます。これは伊賀の魅力がたくさん詰め込んだ体験型のイベントで、今年で10年目を迎えます。

「伊賀の食と出会う」「伊賀ぶらり体験」「伊賀びとの技にふれる」「美容と健康を伊賀で体験」という4つのカテゴリーに分かれた101件のプログラムをご用意いたしました。日野菜漬やおしもん作り体験。伊賀の食材を食べ尽くす体験。城下町をガイドと共に散策し古い町並みを見学。職人から教わる物づくり体験。里山で木こり体験など、町中から自然を満喫するものまで、プログラム内容は多岐にわたります。

待ち侘びる人々の行列に打ち消された。全国から駆け付けてくれた数多くのご当地キャラクター、白亜からの友として主催者の伊賀市文化都市協会をはじめとする伊賀地域の皆様の力を集めて「いちごいちえ」は大盛況のうちに幕を閉じた。グリオくんがこの十五年で一番輝いた日、輝かせてもらった日、そして伊賀がひとつになって輝いた日だと考えている。今日も感謝の気持ちで溢れ出す。

平成二十年六月二十四日は「いが☆グリオ」の活動をはじめた日だ。あれから十五年、目標を聞かれるたびに「継続すること」と答えていた。活動の中から「継続」だけでなく「進化」が必要なものも学んだ。それは、「不易流行」であり芭蕉さんの時代から何も変わっていない。「いちごいちえ」で出会った友人に声をかけられた。「アンタも頑張ってるから、この先ウチも頑張っていくで!」今まで感じたことのない気持ちが入り込み、今更なる「続けること」が誰かの元気になることもあるんだなあ。さあ、ここから二十周年への道のりがはじまる。

(報告・神 太基 高41回) 非日常の体験は、まるで大人の社会見学。のようで、今まで気づかなかった伊賀の良さを再発見できるイベントとなっています。詳しくは「いがぶら公式WEBサイト」(左のQRコードからも)をご覧ください、お申込みの上ご参加ください。

(報告・菊山美早 高41回)



SSH(スーパーサイエンスハイスクール) 継続 普通科も研究指定校に

少子化の中の学校改革を

杉本校長に聞く

スローガンは「日本一、生徒・教員がいきいきしている学校」。自分の思いを相手に伝えることができる、自分を自分で考えることができる、それを「いきいき」という言葉で表現したそう。少子化が進むため、伊賀地域の県立高校(現在5校)はやが

て全体で一学年10〜15クラス減になると見込まれる。このような状況の中で上野高校が、新しい時代に対応し、三重県を代表する高校となるための改革は・・・。現役美術部員の描いた明治校舎の大作が飾られている校長室で、杉本校長の思いを伺った。

普通科改革の研究指定も

文部科学省から5年間の指定を受けて来た理科教科のSSH(スーパーサイエンスハイスクール)は今年度が1期の最終年となる。第2期については、1期からの取り組みを踏まえ、他教科を含めた学校全体として研究開発等に取り組む予定だ。

また、普通科も、令和4年度から3年間、「新時代に対応した高等学校改

革推進事業」の研究指定を受けている。全国で20校、三重県では唯一だ。「伊賀を想い、世界を見据え、社会の課題に挑戦し続ける人材の育成」を目標として次の2項を軸に研究していくとのこと。

その①「探究」を核とした教育課程、文理が融合した新たな学び、地域に根差した教育の実現など弾力的、教科横断的な学習を推進する。

その②外部の教育力の活用、オンラインを活用した学びの充実、学校を越えた高校生等との協働など探究共創ネットワークを構築する。

新たな取り組みの中に、実は制服改革も含まれている。伊賀市の全中学校がジェンダークラスの考えに基づきブレザーに変わることから、70年間一度も

変わることもなかった上野高校の制服も対応が迫られており、今後、詳細を検討していく。また、本年度は視野を広げ、世界で活躍するために必要な素養を養うことを目的に、12月に本校初となる台湾研修を行う。オンラインで事前研修をした上で、希望者から最終10名を選抜すること。

カリキュラムや制服という個別の改革だけに終わらず、全てが、掲げたスローガンに繋がるようしっかり検討し、推進していきたい、と決意をまとめられた。

上高女生徒がモデルの、「ここ(伊賀鉄道)が私の勉強場所」というキャッチコピーで、名張方面からの通学を推奨する中吊り広告や、学校発信のイ



SSH発表会

ンスタグラム(mie.ueno.1899)も作られた。昼休みにはランチミーティングと称して生徒会役員の生徒と校長室で意見交換もされている。「なにか、新しい！」が既に始まっている。(取材 岡森史枝 高41回)

各回のつどいから

高3回

最後の同窓会



私達第三期生は、5月29日湯の山温泉で、卒寿を迎え最後となる同窓会を開催しました。出席者は年齢的にも少数でしたが、流石、人生の生き残りだけあって矍鑠とした友ばかりでした。往時を追懐すれば感慨に堪えず万感胸に迫る楽しいひと時を過ごしました。卒業70年を経過するも気持ちはずしも変わらず、亡き友の話となるとた

高10回

じじいとばああ集い

高10回3年2組(阿呆一族)

だ(彼奴は良い奴だった)という話に終始し時間の経つのも早く、又伊賀での再会あるを誓い散会しました。(文責 樋口)



7月23日というとかつては愛宕さんの花火で上野の街が賑わった日。伊賀

高21回

高21回(幹事 北出楯夫)

コロナのせいで、高校を卒業してから50周年の同窓会は流れ、古希記念の同窓会も流れ、以前は1年間に2度開いたこともあった同窓会中毒の我々の学年、勇気を奮い起し、6月4日、サンプニアで開催した。参加者数75名。そのかみの紅顔の美少年もいまや厚顔の白頭翁、花も恥じらった乙女たちも...。栄枯盛衰、盛者必滅、自然は正直で残酷な経年劣化。それでも、ゲストの「プラプラナ」さんが歌ってくれる青春歌謡に全員声を合わせて大合



唱。前回、各テーブルの話は「病氣」と「親の介護」だったが、今回は「病氣」と「孫」。次回は関東と伊賀の間、名古屋方面で開催しようと約束して解散した。(番條克治)

高23回

高23回(幹事 伊賀)

令和5年5月16日、ヒルホテルサンピア伊賀で第23回普通科卒業生の同窓会を開催、116名が参加した。令和2年6月、令和4年11月開催を目指したが、いずれもコロナ禍で延期となった。幹事6名が満を持して、70歳を迎える令和5年に開催することを決め、ようやく実現した。

337名に案内状を送って263名から出欠の返信があった。返信ハガキの「みんなに伝えた一言」欄に記された全員の言葉を当日の会場ロビーに掲示、皆が足を止め興味深く見入っていた。会場では3学年当時のクラス毎に着席、開会に先立ち、亡くなった同窓生(幹事で確認しているのは22名)を悼み黙禱を捧げた。卒業以来51年、前回開催から22年ぶりの再会である当時の面影は薄れ、初めのうちは、お互いの名札を確認しながら

日、出席者全員に郵送した。また、「みんなに伝えた一言」を見逃した人やゆっくり見られなかった人のために、フォトブック最終ページに掲載したQRコードで閲覧できるよう工夫した。翌日には、有志によるゴルフコンペを開催。また希望者が、上野高校事務室の方の案内で今年1月に耐震改修工事の終わった明治校舎内を見学した。最後に参加者から寄せられたメッセージの中から一つ紹介する。『私にはふるさととは遠きに在りて思うものでしたが、この同窓会が私をふるりにグッと近づけてくれました。上高時代は私の青春の原点です。戻ることができてとても嬉しいです。』



